
隣の男の子

知恵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隣の男の子

【著者名】

N4908A

【作者名】

知恵

【あらすじ】

純粹な恋愛のつもりです。同姓ですが、興味ないかたはすいません。

ん。

「恭介！」

「おうー・おはよー。」

翔は恭介の隣についた。

「昨日のト ビア見た？」

「見たー面白かった。」

翔と恭介は同じサッカー部ですが仲良くなつた。くだらない話で盛り上がつたり、一人で馬鹿なことをして遊んだり。そこら辺にいる普通の高校生と何も変わらない友達・・・だと思つていた。あんなことが起きるまでは。

放課後。

「今日、家寄る? ゲームやろひざい。」

翔がそうこうと、

「えつ。翔の部屋、上がつていいの?」

「うん。当たり前じやん。何で?」

恭介の耳は赤くなつていた。

「どうした? 熱でもあんのか?」

翔が額に手を当てようとしたとき、恭介は手を払つた。

「いや。熱ないと思つ……今日は帰るー。」

「えつ……」

そう言つて恭介は走り去つていった。

翔はベッドに横たわつて考えていた。

(なんだあいつ?耳なんか赤くして……まさかあいつホモなのか?
俺のことが好きなのか?)

翔はそんなことを考えながら眠りについた。

翌朝。

「昨日のドラマ見た?」

「おう!」

いつも通り恭介。翔は思い切つて聞いてみた。

「お前、今好きな人いる?」

「えつ……?」

恭介は目を大きくしながらじつちを見た。

「なつなんで?」

「いや。なんとなく。」

「いないよ! !」

少し焦つていた様子だった。

部活の時間になり、恭介と歩いているとき翔が何気なく聞いた。

「なあ、昨日のアレ何？」

「アレって？」

恭介は何かを思い出すかのよつて考えた。するとどんぐん恭介の耳が赤くなつていつた。昨日と同じ。翔はさらに問いかけた。

「昨日、俺がお前に触らうとしたとき、手払ったじゃん？ 何で？」
「えっと・・・それは・・・」
「お前・・・俺が嫌いなの？」
「いやー、そうじやないんだけど・・・実は俺つ」
「おーい！ 何してるんだ？ 速く来ーいーー！」

先輩が俺たちのこと呼んでいた。

「実は・・・なに？」
「いや。なんでもない。あのときの俺はどうかしてました。すみません。」

そつけない恭介の態度に翔はムツとした。

それから、一人はギクシャクしていつた。話さないし、田も合わせなくなつた。でも、恭介が教室や廊下で誰かと話していると、なぜか嫉妬した。

(いつも俺としか話さないくせに。何ほかの奴と話してんだよー)

いつも翔の隣には恭介がいた。翔にとっては、とても退屈だった。

翔は気がつくと恭介のことを考えていた。

(恭介・・・今何してんだ？ 部活にも来ないし。本当に俺が嫌いなのか？)

そんなのが一週間も続いたある日の部活後。翔は部室の鍵を返し、下駄箱へ向かうと恭介が立っていた。シカトしようと思い、恭介の前を通り過ぎようとしたときだった。翔の腕をギュッと掴んで、キスをした。誰もいない下駄箱。何をされているのか理解ができず混乱していた。

「何ッ・・・すんだよー。」

翔は恭介を押した。

「『』めん。俺さ・・・何か、翔のこと好きみたい。男だつてわかる。でも何か知んないけど、俺・・・」

恭介は耳を赤くしながらさらに言った。

「翔はどう思ってるかわかんないけど・・・えっと・・・だから・・・その・・・そんだけだから！」

翔から目を逸らした。

(なつ・・・何だその顔は！―何か・・・すっげえ可愛いぞ！―)

「何か・・・言つてくれませんか？」

そんな恭介を愛しく思つた翔は、恭介を抱きしめた。

「ごめんな。俺もなんか知んないけど、恭介が好きだよ。男だけど。

」

翔は微笑みながら言った。恭介は翔を見つめた。

「俺、翔のこと好きでいていいの？」

「おう！」

翔は恭介の頭を撫でた。

二人は、一緒に帰った。

「一緒に帰るの久しぶりだな。」

「うん。」

変にぎこちない一人だった。

「なあ・・・もう一度聞くけど、お前の好きな人誰？」

恭介は耳を赤くした。少し咳払いをし、答えた。

「隣の男の子です。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4908a/>

隣の男の子

2011年1月29日02時24分発行